

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 8)

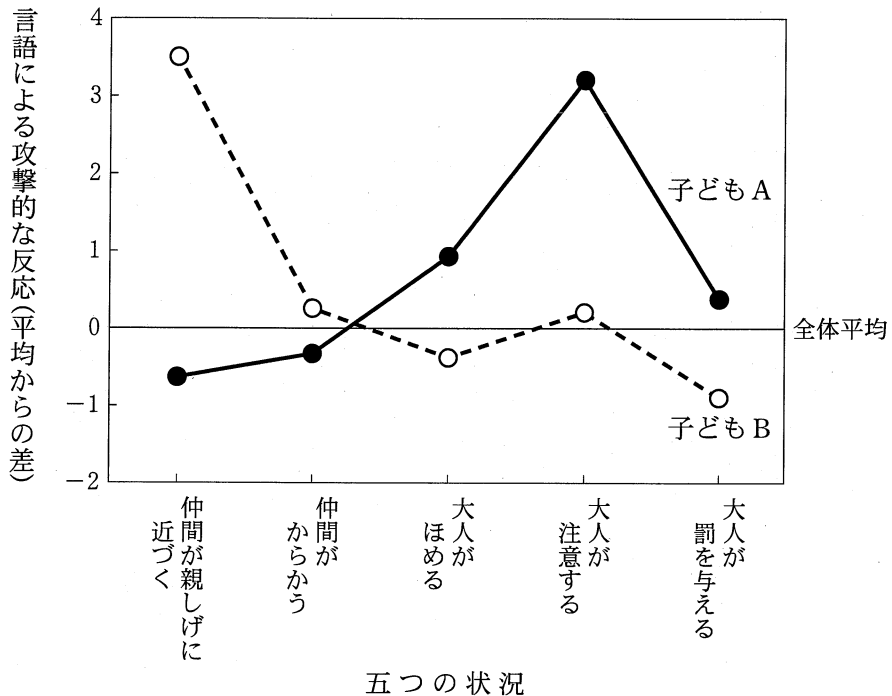
あなたはどのような性格だろうか。そう聞かれても、簡単には答えられないかもしれない。これまでの自分について考えてみても、学校では明るく陽気だが、家では口数が少ないなど、① 様々な状況を通じて一貫した考え方や行動を挙げることは容易ではないからだ。

自分の性格をどう捉えるかは、自分をどう認識するかということでもあり、自我同一性の確立と深く関連する。青年期は、多様な自己像が現れる時期であり、しばしば② 内面の混乱を伴う。状況によって行動が変わることは、そうした自己の揺らぎを一層意識させるため、戸惑いや抵抗を強く感じさせるかもしれない。

しかし、自我同一性の確立とは、どのような相手にも同じ行動をとれるようになることではない。むしろ、その場の状況や相手に合わせて柔軟に対応することは、環境にうまく適応した状態とも言える。状況に応じた行動の違いを受け入れ、多様な自己像を統合し、それを自分の③ 性格として把握することは、自我同一性を確立するために必要な過程である。

問1 下線部①に関連して、次ページの図は、児童福祉を目的とする非営利組織が小中学生を対象に行ったサマーキャンプにおいて、参加者一人ひとりの行動を観察した研究結果の一部である。この研究の目的は下線部①でいう一貫性の有無を検討することであった。図は、キャンプ中に高い攻撃性が見られた二人の子どもについて、「仲間が親しげに近づく」などの五つの状況で、言語による攻撃的な反応(からかい、挑発、脅し)がどのくらいの頻度で観察されたかを表している。図の縦軸の数値は、キャンプの参加者全体の平均を0とし、そこからの差として攻撃的な反応の多さを示している。この図から読み取れることとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。

図 各状況における子どもの攻撃的な反応



(注) この研究では、小中学生 84 人の行動を 6 週間にわたって観察した。子ども一人に対する平均観察時間は 167 時間であった。

Shoda, Y., Mischel, W., & Wright, J.C., 'Intraindividual stability in the organization and patterning of behavior', *Journal of Personality and Social Psychology*, 1994 により作成。

- ① キャンプの参加者全体と比較したとき、子ども A が攻撃的に反応するかどうかは状況に依存するのに対し、子ども B の攻撃的反応はいずれの状況においても全体平均を下回っている。
- ② 二人の子どもはともに、相手との年齢が近いときより離れているときに攻撃的に振舞うが、年齢の近い相手への攻撃的反応の頻度は、子ども A より子ども B の方が高い。
- ③ 相手からほめられる状況と、注意や罰を受ける状況とで比較すると、子ども A は前者よりも後者の二つの状況でいずれも攻撃的になるが、子ども B にその傾向は見られない。
- ④ 高い攻撃性が見られた二人の子どもだが、取り上げられている五つの状況のなかで、全体平均からプラス 1 以上の攻撃的反応を示す状況は、子ども A でも子ども B でも限られている。

倫 理

問 2 下線部①に関して、自我同一性の拡散を表す語句として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 2

- ① 通過儀礼(イニシエーション)
- ② 自意識の過剰
- ③ 否定的アイデンティティ
- ④ モラトリアム人間
- ⑤ ピーターパン・シンドローム

問 3 下線部②に関して、様々な研究者がこれまで唱えてきた性格の分類や特徴についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① リースマンは、他人の行動に照準を合わせて自己の行動を決定する性格を他人指向(志向)型と呼んだが、現代の大衆社会では、こうしたタイプはほとんど見られなくなると主張した。
- ② クレッチマーは、性格と体型の関連を指摘し、リビドーが自己の内側に向きやすい分裂気質は肥満型に多く、リビドーが外界に向きやすい循環気質は細長型に多いと主張した。
- ③ シュプラングァーは、人々の生活を方向づける様々な価値観を整理して、理論型、経済型、審美型、社会型、権力(政治)型、宗教型という六つの性格類型を主張した。
- ④ オルポートは、自己感覚の拡大、温かい人間関係の構築、情緒の安定、自己の客観視、人生哲学の獲得から構成される性格5因子(ビッグファイブ)理論を主張した。

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

人間は時に、なすべきではないことをしてしまう。何をなすべきではないとするかは時代や文化ごとに異なるが、そうした行為はしばしば悪と呼ばれてきた。先哲たちは、悪を行ってしまう自己とどのように向き合ってきたのだろうか。

そもそも人間は、自分が悪を行っている姿を正しく理解できているのだろうか。ソクラテスによれば、人々は①善に関する事柄を知らないにもかかわらず、それを知っていると思いつ込んでおり、だからこそ、善いことをしているつもりで不正を行ってしまう。そこでソクラテスは、人々にそのような②自らの無知を自覚させ、真理の探究へと向かうように勧めたのである。またブツダは、人々が③生の一切が苦であるということを知らず、自己に執着し、煩惱に囚われるがゆえに、他人に嘘をついたりしてしまうと考えた。そのため、④世界を貫く真理を知り、自己の姿を正しく認識することが重要だと説いた。

しかし、仮に何をなすべきではないかが分かっていたとしても、時に私たちは悪の誘惑に屈してしまう。そこで、悪をなすのを抑えるため、外からの働きかけが必要だと考える立場もあった。古代中国には、⑤悪い行為を抑制するため、礼や法を重視する思想家もいた。人間の本性には、欲望の赴くままに行動して社会の秩序を乱す傾向があると考えられたためである。イスラーム教でも、窃盗などの悪事を禁止する様々な⑥戒律が定められた。また、そうした働きかけは悪を抑制するだけではない。⑦イエスの教えを伝道したパウロは、善を行いたいのにな悪を行ってしまう人間のあり方を罪と呼んだが、彼は、律法が人間にその罪を自覚させるきっかけになると考え、そこから人間は福音へ導かれると説いた。このように、礼や法、戒律などは、悪を外から抑えると同時に、自分が欲望に流されて悪をなしてしまうという事実を浮き彫りにし、⑧自分を内から見つめ直す契機にもなるのである。

私たちは、自分が悪をなしていることに気づかず、たとえ気づいても、その事実から目を背けたいくなる。しかし、先哲たちが説くように、自己のあり方を真剣に見つめ、悪を引き起こす無知や欲望の存在を自覚することではじめて、自己を律することの重要性が理解されるのである。そしてそのことは、自己が社会のなかで他者とともに善く生きるための大きな一歩ともなるだろう。

問 1 下線部②に関連して、古代ギリシア・ローマでは様々な仕方で善について考えられてきたが、その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ストア派は、宇宙を貫く理法(ロゴス)に従って生きることによって得られる精神的快楽を幸福とみなし、この幸福を最高善として理解した。
- ② プロタゴラスは、最高の真実在である善そのものを万物の尺度とみなし、それを認識した哲学者が国家を支配すべきであると説いた。
- ③ アリストテレスは、理性を人間に固有の能力とみなし、人間にとっては理性に基づく魂の優れた活動こそが最高善であると考えた。
- ④ エピクロスは、物事の尺度は相対的なものであり、各人ごとに異なるため、善についての普遍的な判断というものはないと主張した。

問 2 下線部①に関して、対話相手に自らの無知を自覚させるためにソクラテスが用いた方法の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 相手との問答を通して、相手の考えの矛盾を明らかにするという方法
- ② 神託に謙虚に従い、魂がそなえるべき徳に関する知へ誘うという方法
- ③ 善に関する真理を教授し、知を愛することを手助けするという方法
- ④ 魂を主題とする問答を通して、互いの優れた考えを学び合うという方法

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、苦についてのブッダの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① 苦の原因は、自分が何であるかを知らないという点にある。だから、苦をなくすためには、世界の事物を存在させる原因や条件を超越したものが自分の本質であると正しく認識しなければならない。
- ② 苦の原因は、自分でないものを誤って自分と思い込むところにある。だから、苦をなくすためには、存在するともしないとも言えない不可知なものが真の自分であると正しく認識しなければならない。
- ③ 苦の原因は、自分でないものを誤って自分と思い込むところにある。だから、苦をなくすためには、他の事物の存在を可能にする根源的な精神こそが真の自分であると正しく認識しなければならない。
- ④ 苦の原因は、自分が何であるかを知らないという点にある。だから、苦をなくすためには、自分と呼ばれるものは恒常不変の実体ではなく、変化してやまないものであると正しく認識しなければならない。

問 4 下線部㉕に関連して、古代インドでは世界を貫く真理について様々な仕方でも考えられてきたが、その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 竜樹(ナーガールジュナ)は、存在するすべてのものには実体がないという思想を説いた。
- ② ウパニシャッド哲学では、人間だけでなくすべての生あるものが成仏できる可能性をもつと説かれた。
- ③ 世親(ヴァスバンドゥ)は、梵我一如の体得によって輪廻の苦しみから解脱することを説いた。
- ④ ジャイナ教では、世界のあらゆる物事は人間の心によって生み出された表象であると説かれた。

問 5 下線部㉔に関連して、次のア～エは、悪い行為の抑制方法について考えた中国の思想家たちの主張であるが、それぞれ誰の思想であるか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 8

ア 現実の人間は、本性としてそなわっている理が気によって妨げられているため、私欲が生じる状態にある。私欲が勝つと天理を滅ぼすことになるので、本性の涵養かんようと事物の理の探究によって本来の理を発現すべきである。

イ 特定の人間のみを愛するとその人間だけの利益をはかるようになり、その結果、争いが生じる。それゆえ、正義を望む天の意志にかなうよう、人間は国や身分の違いを超えて分け隔てなく愛し合うべきである。

ウ 私的な欲望を増大させることは人間の最大の罪悪であり、戦争もまたここから生じる。それゆえ、争いのない平和な社会のためには、人がつくった道徳を排し、あるがままの素朴な生活に満足することが大切である。

エ 人間は利己的で打算的な存在であるため、社会秩序を志向するようにはできていない。道徳によって人間を善へ教化するのは幻想にすぎず、信賞必罰を旨とする法律と刑罰によって秩序を維持すべきである。

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| ① | ア 朱 子 | イ 孟 子 | ウ 孔 子 | エ 荀 子 |
| ② | ア 王陽明 | イ 墨 子 | ウ 老 子 | エ 荀 子 |
| ③ | ア 朱 子 | イ 墨 子 | ウ 老 子 | エ 韓非子 |
| ④ | ア 王陽明 | イ 孟 子 | ウ 孔 子 | エ 荀 子 |
| ⑤ | ア 朱 子 | イ 孟 子 | ウ 老 子 | エ 韓非子 |
| ⑥ | ア 王陽明 | イ 墨 子 | ウ 孔 子 | エ 韓非子 |

倫 理

問 6 下線部①に関して、クルアーン(コーラン)には、神がモーセに下したとされる十戒同様、十の戒律が列挙されている箇所がある。次に示す両者の要約を読み、イスラーム教とユダヤ教を比較した記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 9

【クルアーンの十の戒律】

神に並ぶものを配してはならない。
両親によくしなさい。
貧乏を恐れて子を殺してはならない。
醜悪なことに近づいてはならない。
理由なく命を奪ってはならない。
孤児の財産に近づいてはならない。
十分に計量し正しく量れ。
発言する際には、公正であれ。
神との約束を果たせ。
神が示した正しい道に従え。

【モーセの十戒】

私以外のどんなものも神とするな。
像を造って、ひれ伏してはならない。
神の名をみだりに唱えてはならない。
安息日を心に留め、これを聖とせよ。
父母を敬え。
殺してはならない。
かんいん 姦淫してはならない。
盗んではならない。
隣人に関して偽証してはならない。
隣人の家をむさぼってはならない。

- ① 両宗教ともに神を唯一なるものと考え、唯一神以外の神を崇拝することを禁止しているが、ユダヤ教では偶像崇拝を許容している。
- ② イスラーム教の神は超越者ではないので、超越神を信奉するユダヤ教のように、神の名をむやみに唱えることを禁止する戒律はない。
- ③ 人間の健康と福祉は両宗教において何よりも重視されているので、ともに過労を防ぐために一切の労働を停止し休息をとる日を定めている。
- ④ 両宗教が定める倫理規範においては、力点の置き方が多少違うものの、ともに親孝行と並んで社会的な振舞い方が規定されている。

問 7 下線部㉔に関して、罪についてのイエスの考え方の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① イエスは、神の意志に反する行為を実際に行ってしまう人間の傾向を罪とみなし、その罪からの救済が誰に起こるかは、人間を超えた神の意志によって予定されていると主張した。
- ② イエスは、たとえそれを実行せずとも、人間が心のなかで悪しき思いを抱くことそれ自体を罪とみなし、自らが罪人である^{つみびと}ことを自覚し、その罪を赦^{ゆる}す神の愛を信じるよう説いた。
- ③ イエスは、原初の人間が自由意志を悪用して神に背いたことに由来する人間のあり方を罪と考え、自由意志を正しく用いて自己自身を高めることで、その罪から脱却できると説いた。
- ④ イエスは、人間が神なしでも自力で生きていけると考えている傲慢^{ごうまん}を根源的な罪であると考え、その罪は、律法を厳格に遵守することでのみ、神から義とされて赦されると主張した。

倫 理

問 8 下線部①に関連して、悪をなす自己を見つめ直した思想家について述べた次の文章を読み、文中の空欄 **a** ・ **b** に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 11

4～5世紀に活躍した **a** は、青年期は欲望のままに生きていたが、神への信仰に目覚め、悪に苦悩しながら、自らを見つめ直していった。彼は、その遍歴を、著作『 **b** 』に記した。

- | | | | | |
|---|---|-------------|---|------|
| ① | a | トマス・アキナス | b | 自省録 |
| ② | a | アウグスティヌス | b | 告白 |
| ③ | a | マルクス・アウレリウス | b | 自省録 |
| ④ | a | アウグスティヌス | b | 神学大全 |
| ⑤ | a | マルクス・アウレリウス | b | 告白 |
| ⑥ | a | トマス・アキナス | b | 神学大全 |

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 人間は、無知や欲望のせいで意に反して悪を行いがちである。だが、人間は自己を正しく認識することで、生まれながらの悪なる本性から自由になることができる。それゆえ、自己を善へと矯正していくために、自己の外に目を向けずに内省に^{しんし}真摯に努めることが何よりも重要である。
- ② 人間は、無知や欲望のせいで意に反して悪を行いがちである。自らの悪に過度に思い煩わされると、悪が何であるかは文化ごとに異なるという事実を忘れてしまいかねない。そのため、善悪の基準がどのように形成されるのかを冷静に省察することが何よりも重要である。
- ③ 人間は、自らが悪をなす存在であることから目を背けがちである。だが、自らのあり方を直視することが、悪を自制する端緒となる。そのため、外からの働きかけも手がかりとしながら、表面的な自己理解を超えて、自らがなす悪の原因を自覚することが何よりも重要である。
- ④ 人間は、自らが悪をなす存在であることから目を背けがちである。このように悪をなす自らのあり方を知ろうとしないのは、善悪の判断を社会的な規律へと無批判に^{ゆだ}委ねているからである。それゆえ、そうした規律に従うことの是非を批判的に検討することが何よりも重要である。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

現代の人々が心の^よ拠り所を見失いつつあると言われるようになって久しいが、日本人は古来、様々な仕方で生きる^{よすが}縁を見いだしてきた。日本の思想史において、人々がどのように生き方の指針を見だし、心の安らぎを得てきたか、言いかえれば、日本人の「^{あんじん}安心」のありかの軌跡を振り返ってみよう。

古代の人々は、㉔ 八百万の神々にみられるアニミズムの世界の中に息づいていた。彼らは、これらの㉕ 神々とともにこの世を生き、隠しごとがなく純粋であることを望ましい生き方とみなし、そこに心の安らぎを見いだしていたのである。とはいえ、神々との^{かか}関わりが常に幸いをもたらすとみなされていたわけではなかった。人々は、災厄などの納得し難い現象の背後にもなお神々の働きをみていた。古代の日本人の生き方に着目した本居宣長によれば、㉖ 死もまた「せむかたなき」事象として受容すべきものであったという。

平安後期以降は、浄土教思想の隆盛に伴い、㉗ 阿弥陀仏の住む極楽浄土への往生を期することが安心の主流をなしたが、とりわけ臨終の際には、心穏やかに念仏を称え、^{とな} 聖衆の^{しようじゆ}来迎にあずかることが、^{あかし} 確かな往生の証とされた。もともと、この世を生きる自己が抱える様々な苦悩や^{まま} 儘ならなさは解消したわけではなかったが、それらは㉘ 前世からの自らの「業(宿業)」が招いた結果と受け止められもした。思想的な立場は異なるが、近世の「天」や「天道」の観念にも、㉙ 果たすべき使命や役割だけでなく、思い通りにならない我が身のありようを「天命」の一端と捉え、それに従うことのうちにこそ、安心はあるという内容をもてとることができる。

明治期に入ると、西洋近代の学問を学んだ啓蒙思想家たちは、これらの超越的な諸観念は、実証に堪えず、それゆえ生の拠り所とするには足りないといみならず傾向があった。福沢諭吉が『学問のすゝめ』で、㉚ 「信の世界に偽詐多し」と述べたのはその代表的な例である。また、中江兆民は、余命一年半の宣告を受けた後、㉛ 唯物論の立場から、神仏的な観念に拠らずに死を受け容れるべきことを説いた。これは、近代以前とは異なる安心のかたちを示したものとも言えよう。

このように見てくると、安心をめぐる思索は、時代や思想的な立場によって様々な展開されてきたが、A と言えよう。

問 1 下線部②の神々はどのような存在か。その説明として正しいものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 感覚を超えた絶対的に善なるもの
- ② 不可思議で畏怖すべきなもの
- ③ 全知全能にして宇宙万物の創造主
- ④ 宇宙の根底にある不変の根本原理

問 2 下線部①のような心のあり方を表す言葉として適当でないものを、次の①～

④のうちから一つ選べ。 14

- ① 赤 心
- ② 明き心
- ③ 黒 心
- ④ 清き心

倫理

- 問 3 下線部◎に関して、本居宣長が死の受け止め方について述べた次の文章を読み、その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

15

神道の安心は、人は死に候へば善人も悪人もおしなべて、みな黄泉国へゆくことに候。善人としてよき所へ生まれ候ことはなく候。これ古書の趣にて明らかに候なり。……さて、その黄泉国は、きたなくあしき所に候へども、死ぬれば必ず行かねばならぬことに候故に、この世に死するほど悲しきことは候はぬ也。しかるに、儒や仏は、さばかり至て悲しきことを、悲しむまじきことのやうに、色々と理屈を申すは、真実の道にあらざること、明らけく候なり。

(本居宣長『鈴屋答問録』より)

- ① 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないのだから、いざという時にうろたえることのないように日ごろから心の修養に努めることのうちにこそ安心はあり、いたずらに死を悲しむべきではない。
- ② 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないが、黄泉国での禍福はこの世の生き方によって決まるのだから、死を悲しまず、この世で善行に努め、死後の安楽を目指すことのうちにこそ安心はある。
- ③ 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないが、この世の生き方にこそ意味があるのだから、死を悲しむことなくこの世でできる限り安楽に生きることのうちにこそ安心はある。
- ④ 死は人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は黄泉国へと赴くほかはないのだから、そのように心得ることのうちにこそ安心はあり、根拠のない恣意的な説によって、いたずらに死の悲しみを克服しようとするべきではない。

問 4 下線部㉑に関して、阿弥陀仏の誓願(本願)についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 『無量寿経』に説かれた四十八の誓願からなり、阿弥陀仏を信じてひたむきに名号を称える者は一人残らず浄土へ往生させるという内容を中心とする。
- ② 『無量寿経』に説かれた四十八の誓願からなり、阿弥陀仏を信じてひたむきに唱題にはげむ者は一人残らず浄土へ往生させるという内容を中心とする。
- ③ 『法華経』に説かれた四十八の誓願からなり、阿弥陀仏を信じてひたむきに真言を称える者は一人残らず浄土へ往生させるという内容を中心とする。
- ④ 『法華経』に説かれた四十八の誓願からなり、阿弥陀仏を信じてひたむきに坐禅にはげむ者は一人残らず浄土へ往生させるという内容を中心とする。

問 5 下線部㉒の記述と関係の深い思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 諸行無常
- ② 因果応報
- ③ 涅槃寂静
- ④ 諸法無我

倫理

問 6 下線部㉑に関連して、「天道」との関わりにおいて、人間の実践を能動的なものとして捉えようとした思想家の一人に吉田松陰がいる。彼の思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 天道にかなうとは、功名や利欲を離れた純粹な心情に徹し、己の誠を尽くすことにほかならない。我が国の主君に忠を尽くす勤皇の精神は、この誠において、天道に通じている。
- ② 日常卑近な人間関係における愛こそが天道にかなうものである。人々が孔子の道に立ち返り、他者に対して忠信や恕の実践に努めるならば、互いに愛し親しむ和合が実現する。
- ③ 日々営まれる農業こそ、自然の根源的な生成活動としての天道にかなう営みである。万人が直接に農業に携わる自給自足の生活に復帰すべきであり、農民に寄生している武士や町人は無用である。
- ④ 天道は事物のおのずからなる働きであるが、そこに人道が加わることによって事物の働きは完全になる。分に応じた儉約によって得た富を社会に還元することによって、天地や他者の恩恵に報いなければならない。

問 7 下線部㉒に関して、福沢諭吉がそのように述べた理由を説明した次の文中の空欄 a ・ b に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 19

a の^{かんよう}涵養と b の導入による文明化こそが近代日本の歩むべき道であるとみた彼は、神仏などへの「信」によって形成される依存的な体質が、真理を見失わせ、文明の進歩を妨げると考えたから。

- ① a 独立自尊 b 民本主義 ② a 東洋道徳 b 実学思想
- ③ a 忠孝心 b 人権論 ④ a 独立心 b 数理學

問 8 下線部①に関して、次の文章は中江兆民が、唯物論に基づいて死の受け止め方を述べたものの一部である。その内容の説明として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20

精神は不滅のものでない、精神の本体源頭たる軀体^{くたい}(1)こそ、若干^{そこばく}(2)元素の抱合³になれるもので、たとえ解離しても不滅である。……故に人死すれば従前あった所の五尺の軀^み(1)は解離して、散りぢりばらばらになって、各元素皆不滅である。故に人一旦死すれば、天道の望むべきもなく、地獄^{おそ}の畏るべきもなく、かつまた二度再び人体を受けてこの世に生まれ出るはずはない……。世界は無始無終である、……また無辺無極である……。しかしてその本質は若干数の元素であって、この元素は永久^{ゆうり}游離⁴し、抱合し、解散し、また游離し、抱合し、解散し、かくの如くして一毫^{いちごう}(5)も減ずるなく増すなく、即ち不生不滅である。草木人獣皆これ物の抱合に生じ、解散に死するのである。

(中江兆民『統一年有半』より)

- (1) 軀体・軀：身体
- (2) 若干：いくつかの
- (3) 抱合：化合
- (4) 游離：遊離
- (5) 一毫：ほんのわずか

- ① 生命体に特有の精神作用とその停止としての死という現象が見られるのは、構成する諸元素の離合集散の仕方が異なるためである。霊魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はここにある。
- ② 生命体特有の現象に見える生死にしても、構成する諸元素の離合集散の回数が多いために生じるにすぎない。したがって、霊魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はない。
- ③ 生命体特有の現象に見える生死にしても、構成する諸元素の離合集散作用の一コマにすぎない。したがって、霊魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はない。
- ④ 生命体に特有の精神作用とその停止としての死という現象が見られるのは、無生物とは構成する諸元素の種類を異にするからである。霊魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はここにある。

倫 理

問 9 本文の趣旨を踏まえて、に入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 安心のありかは、死後の世界や死の受け止め方よりも、物質文明に基づくこの世の生の充実に関わってきたことから、現代の私たちが心の拠り所を問うに際しても、超越的な観念に拠らない文明観の確立こそが肝要である
- ② 安心のありかは、この世の生のあり方だけではなく、死後の世界や死の受け止め方にも関わってきたことから、現代の私たちが心の拠り所を問うに際しても、生と死の意味をいかに捉えるかという死生観の確立こそが肝要である
- ③ 安心のありかは、物質文明とは関わりなく、人間が自然の中でいかに心の安らぎを見いだすかに関わってきたことから、現代の私たちが心の拠り所を問うに際しても、人間とは対立しない自然観の確立こそが肝要である
- ④ 安心のありかは、この世の生の充実よりも、死後の世界や死の受け止め方に関わってきたことから、現代の私たちが心の拠り所を問うに際しても、超越的な観念に基づく宗教観の確立こそが肝要である

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

人間の身体が、自動機械をモデルとする物体として自然科学の研究対象となったことは、近代以降の医療技術の発展に結び付いたと言われる。だが、そうした身体観に対しては、様々なかたちで異論も提起されてきた。ここでは、近現代の西洋思想において身体がどのように捉えられてきたのかを振り返ってみよう。

身体を心から明確に区別したのは17世紀の哲学者④デカルトである。彼によれば、人間の身体は精神(心)とは異なり、物質から構成された機械にすぎない。この区別によって、精神は①認識する主観として、身体は認識される客観として、二元論的に捉えられることになる。しかし、こうした物心二元論は、身体と心という全く異なるものがどのように関係するのかという問題を残した。デカルトと同時代の哲学者③ホッブズは、心の働きもまた物体の運動であるとして、物心二元論を否定し、人間を機械とみなす立場を徹底することで、この問題を解決しようとした。

こうした④機械論的な自然観に基づいて、生命なき物質という概念が確立されることによって、逆に生命とは何かが主題となる。19世紀半ば以降になると、進化論の影響もあり、生命や身体に対する考え方にも変化が生じた。⑤ベルクソンは、独自の視点から心身関係を考察するとともに、生物を物質的要素の機械的結合とみなす考え方を批判し、「生命の飛躍」という概念によって生命の固有性を主張した。

20世紀になると、⑥ハイデッガーは「世界内存在」としての人間の在り方を探求し、それに基づいて、主観と客観の対立の構図のなかで認識を捉えようとするデカルト以来の発想を批判した。また、ベルクソンや⑧フッサールの考え方を引き継いだメルロ＝ポンティは、知覚が生成する場としての身体に着目し、デカルト的二元論の克服を図った。彼の考察によれば、身体を離れて、私が存在することも私にとっての世界が存在することもなく、身体は主体であるとともに客体でもある。

このように考えるならば、身体から離れた主観としての私が、客観としての世界を認識することはあり得ない。⑨私が身体をもつのではなく、いわば私とは私の身体なのである。それゆえ、心と身体、主観と客観といった二元論的区別を自明の前提とせず、身体によって生きられた世界という観点から、これまでの科学の方法では見逃されてきた世界や人間の^{ありよう}有様を考え直してやる必要があるであろう。

問 1 下線部④に関して、デカルトの言葉として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① 人間の知識と力は合一する。
- ② 事物を永遠の相のもとに観想する。
- ③ この宇宙の沈黙は私を震撼させる。
- ④ 良識はこの世で最も平等に分配されている。

問 2 下線部⑤に関連して、科学的な認識に関するカントの主張として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 認識はすべて経験に由来するものであり、人間の心はもともと何も書かれていない白紙のようなものである。
- ② 確実な認識は、経験に依存せず、人間に生まれつきそなわっている観念を基礎とした理性的思考によって得られる。
- ③ 認識とは、主観にそなわる認識能力によって対象を構成することであり、認識が対象に従うのではなく、対象が認識に従う。
- ④ 確実な認識は、精神が弁証法的運動を通じて段階的に発展していく過程において得られるものである。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、次の文章はホッブズの考え方を説明したものである。これを読んで、**a** ~ **c** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **24**

ホッブズは、物体の本性をデカルトのように **a** とはみなさず、運動であると考えた。人間の心の働きもまた、物体における運動の過程として説明される。さらに彼は、物体の運動に自己保存の傾向を認め、人間におけるこの自己保存の権利を **b** と呼ぶが、これが無制限に行使されると、かえって各人の自己保存は困難となってしまうと言う。そのため人々は **b** を一人の人間または合議体に譲り渡し、譲渡されたものは怪物的な存在に譬えられるような強大な権力をもった **c** を形成して平和を維持すると彼は説いた。

- ① a 延長 b 自然権 c 国家
- ② a 延長 b 自然権 c ファランジュ
- ③ a 延長 b 生存権 c 国家
- ④ a 延長 b 生存権 c ファランジュ
- ⑤ a コギト b 自然権 c 国家
- ⑥ a コギト b 自然権 c ファランジュ
- ⑦ a コギト b 生存権 c 国家
- ⑧ a コギト b 生存権 c ファランジュ

問 4 下線部㉑に関連して、汎神論的な世界観の影響を受け機械論的な自然観を批判した人物として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- | | |
|-----------|--------|
| ① プトレマイオス | ② ゲーテ |
| ③ ニュートン | ④ ベーコン |

問 5 下線部㉒のベルクソンは人間を「ホモ・ファーベル」と捉えているが、これに関連して、人間性の特徴を示す次のア～エの言葉は、A～Dのどれを表したもののか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

26

- | | |
|------------|--------------|
| ア ホモ・ファーベル | イ ホモ・ルーデンス |
| ウ ホモ・サピエンス | エ ホモ・レリギオーサス |

- A 人間は知恵をもち、理性的な思考能力をそなえた存在である。
 B 人間は道具を使って自然に働きかけ、ものを作り出す存在である。
 C 人間は自らを超えるものに目を向け、宗教という文化をもつ存在である。
 D 人間は日常から離れて自由に遊び、そこから文化を作り出す存在である。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア—A | イ—B | ウ—C | エ—D |
| ② | ア—A | イ—C | ウ—B | エ—D |
| ③ | ア—B | イ—D | ウ—A | エ—C |
| ④ | ア—B | イ—A | ウ—D | エ—C |
| ⑤ | ア—C | イ—B | ウ—D | エ—A |
| ⑥ | ア—C | イ—D | ウ—B | エ—A |
| ⑦ | ア—D | イ—C | ウ—A | エ—B |
| ⑧ | ア—D | イ—A | ウ—C | エ—B |

倫理

問 6 下線部㉑に関して、ハイデッガーの思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 人間は、誰も^{だれ}が自分の死を引き受けねばならず、死の自覚を介して、はじめて本来的な自己の在り方を獲得することができる。
- ② 人間は、生存への非合理的な意志のために、不断の欲求に駆り立てられ苦の世界に生きるが、意志の否定によって苦から脱却する可能性をもつ。
- ③ 人間は、単独者として神の前に立つことによって、神への信仰へと飛躍し、真の自己を回復することができる。
- ④ 人間は、不断に自己自身を超克しようとする意志によって、新たな価値を創造し、ニヒリズムを克服することができる。

問 7 下線部㉒に関して、フッサールの思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 人間は自己の在り方を自由に選択するため、実存が本質に先立つ。
- ② 事物は知覚と独立には存在せず、存在するとは知覚されることである。
- ③ 言語の限界を超える語り得ぬものについては、沈黙せねばならない。
- ④ 自然的態度を変更し、判断中止を行うことが必要である。

問 8 下線部①に関連して、身体と所有に関する次の文章を読み、そこから読み取れる内容として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。 29

たとえ、大地と、すべての下級の被造物とが万人の共有物であるとしても、すべての人は、自分自身の身体については所有権をもっている。……彼の身体の労働とその手の働きとは、まさしく彼のものであると言ってよい。したがって、自然が準備し、そのまま残しておいたものから、彼が取り出すものは何であれ、彼はこれに自分の労働を混合し、何か自分自身のものをつけ加えたのであって、このようにしてそれを自分の所有物とするのである。……この労働は労働した人の疑いもない所有物なのであるから、少なくともほかに共有物として他人にも十分に、そして同じようによいものが残されている場合には、ひとたび労働がつけ加えられたものに対しては、彼以外の誰も権利をもつことができないのである。

(ロック『統治二論』)

- ① 自分の労働による所有は認められるが、それによって他の人が所有することを大きく妨げるようなことがあってはならない。
- ② 自分の労働による所有は認められるが、生産手段を所有して他の人を支配するといった権利をもつことはできない。
- ③ 自然は人々の共有物であるが、身体を用いて自然に対して労働を付加することによって、所有物への権利が発生する。
- ④ 自然は人々の共有物であるが、自然に対する労働を生み出す身体そのものは共有物ではない。

倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① 身体性をその本質とする人間は、身体的知覚の根源性に支えられて世界内に生きる存在である。それゆえ、生命なき身体が知覚の働きによって生きた身体へと変化していくプロセスを科学的に解明する必要がある。
- ② 身体は、純粋な主観でも単なる客観でもない両義的存在である。身体を自然科学的に捉えることも重要であるが、心と身体を分離して考えるのではなく、身体を介して世界に生きる人間の在り方にも目を向ける必要がある。
- ③ 身体性をその本質とする人間は、身体の有機的メカニズムに支えられた高度な精神能力をそなえる存在である。それゆえ、物質的身体において非物質的な心の機能が構築されていくプロセスを科学的に解明する必要がある。
- ④ 身体は、生命現象の根源性を基盤として、世界と相互作用する主観的存在である。身体を自然科学的に捉えることも重要であるが、生きた身体としての人間存在の主観的根源性にも目を向ける必要がある。

倫理

第5問 以下は、二人の高校生YとZが交わした会話の一部である。この文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 20)

Y：新しい薬の開発のために①動物実験が行われていると聞いたけれど、嫌な話だね。実験は本当に必要なのかな？ 培養した細胞を使ったり、コンピュータでシミュレーションしたりすれば、動物を使う必要はないと言う人もいるよ。

Z：動物実験の数を減らすことはできるかもね。でも、②クローンや遺伝子にかかわる技術を開発するのに、動物実験を全く行わないのは難しいよ。そもそも、実験に限らず、動物は様々なかたちで利用されているんだ。③臓器移植法を改正しても臓器は不足するから、動物を移植に使おうという試みもあるし。

Y：動物を移植に使う？ 信じられない。動物だって、痛みも不安も感じているはず。動物も人間と同じように生きる権利をもっているという考えもあるもの。

Z：どうして動物と人間が同じだなんて言えるんだい？ 人間は特別な存在なんだよ。人間は理性をもっていて、これから何をしようとしているかを明確に自覚しながら、④自分で自分のことを決められるんだから。

Y：自分で決められない人間もいるはずだし、自分で決められるかどうか、そんなに大切とは思えないな。⑤人間と動物は対等な生命と考えるべきで、動物を一方的に利用することは許されないよ。それに、自然のなかでは、人間も動物も同じ生き物なんだから、自然を好き勝手に利用するのは許されないんだ。自然に対して敬意を払い、自然を守るべきだよ。

Z：確かに自然を守るのは大切だけれど、⑥自然環境を積極的に守れるのは人間だけだよ。人間は将来を見通して、自分たちのために必要だと思えば、動物や自然を守っていくものなんだ。けれど、それは、自然自体に尊厳や価値を認めているんじゃない。人間のためなんだ。

Y：でも、そういう人間が、今日の⑦環境破壊をもたらしたんじゃないか。人間が未来を見通せるとしても、見通せることは限られているし、自分に都合よく見てしまうかもしれない。だから、あくまで人間のためだという傲慢さは捨てて、自然そのものに価値を認めながら、自然を守っていくべきだよ。

問 1 下線部②に関して、今日、動物実験をする際に配慮すべき原則(3Rと呼ばれる原則)として次のA~Cが挙げられる。ア~エの事例をA~Cに分類した場合の組合せとして最も適当なものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。

31

- A Reduction(動物使用数の削減)
- B Replacement(動物実験の代替手段への置換)
- C Refinement(動物が受ける苦痛の軽減)

- ア 小型のブタを利用して心臓などの臓器の摘出トレーニングを行う際、ブタに十分に深い麻酔をかける。
- イ 研究者や研究組織が実験データを公開し、情報を共有することで、重複する実験を行わないようにする。
- ウ ウサギの目に試験薬物を塗る実験をやめ、目の組成によく似た細胞を使い、それに試験薬物を塗る実験を行う。
- エ 必要に応じて実験動物に水や餌^{えさ}を与えるとともに、実験動物のいる空間を適切な温度に維持する。

- ① アーA イーB ウーC エーA
- ② アーA イーC ウーB エーC
- ③ アーB イーA ウーC エーB
- ④ アーB イーC ウーA エーA
- ⑤ アーC イーA ウーB エーC
- ⑥ アーC イーB ウーA エーB

倫 理

問 2 下線部①に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。 32

- ① 出生前診断によって、男女の判別や産み分けはまだできないが、胎児の障害の有無を知ることが部分的に可能になった。しかし、出生前診断が命の選別や新しい優生学につながるのではないかという批判もある。
- ② ヒトゲノムを解読しようとする試みは、1990年から進められ、2003年には解読の完了が宣言された。このことによって、どの遺伝子配列がどのような役割を果たすかについてすべて解明されたことになる。
- ③ 1990年代後半、クローン羊ドリーが誕生し、ほ乳類の体細胞クローンの作成が可能であると知られるようになった。このクローン技術を応用すれば、拒絶反応のない移植用臓器の作成が将来は可能になるという主張もある。
- ④ 遺伝子組み換え技術は、農薬や害虫に強い新しい品種の食物を作ることができる。既にいくつかの遺伝子組み換え作物が商品化され、その結果、安全性や環境への影響を疑問視する声はなくなった。

問 3 下線部㉔に関して、次のア～ウの事例は日本の臓器移植法(1997年成立、2009年改正)でどう扱われるだろうか。ア～ウの事例をA～Dに分類した場合の組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。 33

ア Eさんは、脳死状態になった場合には心臓を提供したいという意思表示を口頭でしていた。Eさんが14歳で脳死状態になったとき、両親はEさんの心臓の提供を病院に申し出た。

イ Fさんは、脳死状態になった場合には肝臓を提供することをドナーカード(臓器提供意思表示カード)に記していた。Fさんが15歳で脳死状態になったとき、両親はFさんの肝臓の提供を病院に申し出た。

ウ Gさんは、脳死状態になった場合には心臓と肝臓の提供を拒否することをドナーカードに記していた。Gさんが16歳で脳死状態になったとき、両親はGさんの心臓と肝臓の提供を病院に申し出た。

- A 改正前の臓器移植法でも改正後の臓器移植法でも提供が認められる。
- B 改正前の臓器移植法でも改正後の臓器移植法でも提供が認められない。
- C 改正前の臓器移植法では提供が認められないが、改正後は認められる。
- D 改正前の臓器移植法では提供が認められるが、改正後は認められない。

- ① アーA イーB ウーC
- ② アーA イーC ウーB
- ③ アーA イーC ウーD
- ④ アーB イーA ウーC
- ⑤ アーB イーA ウーD
- ⑥ アーB イーC ウーA
- ⑦ アーC イーA ウーB
- ⑧ アーC イーA ウーD
- ⑨ アーC イーB ウーA

倫 理

問 4 下線部①に関連して、カントはその道徳思想において「自律」を強調したが、この概念についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 適切な欲望を自分で選ぶことが重要であり、このことが人間の自由とも結び付く。
- ② 神が与えた道徳法則に自ら従うことが重要であり、このことが人格の尊厳とも結び付く。
- ③ 理性が自ら立てた法則に従うことが重要で、このことが人間の自由とも結び付く。
- ④ 構想力が自ら生み出した法則に従うことが重要で、このことが人格の尊厳とも結び付く。

- 問 5 下線部㉔に関連して、次のベンサムの記事を参考にしながら、ベンサムの思想の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

人間以外の動物が、人間の暴力的な支配によって奪われてきた権利を手に入れる日がいつか来るかもしれない。……脚の数が違うことや……尾のあることが、感覚をそなえた存在を気ままに苦しめてよい十分な理由にならないことが、いつの日かきつと明らかになるだろう。それなら、人間とそれ以外の動物との間に越え難い一線を引くものが、ほかにあるだろうか。思考の能力や話す能力の有無がそれだろうか。しかし、成長した馬や犬は、生後1日や1週間の赤ん坊と比べても、1か月の赤ん坊と比べても、はるかに理性的であり、はるかに意思の疎通ができる動物である。また、たとえそうでなかったとしても、そこに何の意味があるだろうか。問題は、馬や犬が理性的に考えられるかでも、話すことができるかでもなく、苦痛を感じるができるかなのである。

(ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』)

- ① ベンサムは快楽の量と質の区別を重視したため、感覚をそなえていることこそが、利益を尊重すべき存在とそうでない存在を分ける唯一の境界線になると主張している。
- ② ベンサムは最大多数の最大幸福を目指したため、幸福の量を計算できる知性をもつことこそが、権利を尊重すべき存在とそうでない存在を分ける境界線になると主張している。
- ③ 道徳感情を正と不正の判断基準にするベンサムにとって、苦しみや痛みを感じるができる能力は、言語能力や高等数学の能力のような他の能力とは根本的に異なるものである。
- ④ 快楽を善とし、苦痛を悪とみなすベンサムにとって、苦しみや痛みを感じるができる能力こそが、何らかの存在が平等な配慮を受ける権利を得るために必須^{ひつす}の能力である。

倫理

問 6 下線部㉔に関連して、環境問題に取り組むうえで重要な考え方として「循環型社会」がある。この社会の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① 環境に大きな影響を及ぼす事業について、事前に調査し評価することを積極的に推し進めていく社会
- ② 資源の有効利用を目指し、資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減しようとする社会
- ③ 将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発を進めていく社会
- ④ 地球規模の視野をもつだけでなく、自分にできる身近な活動から環境保護を始めていこうとする社会

問 7 下線部㉕に関連して、次の文は、公害による環境破壊に反対した人物についての説明である。 a と b に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 37

a は「民を殺すは国家を殺すなり」と訴え、農民の立場から公害問題に取り組み、日本の公害の原点と言われる b が大きな社会問題になった際には、その先頭に立って抗議運動を展開した。

- ① a 田中正造 b 足尾銅山鉍毒事件
- ② a 田中正造 b 水俣病
- ③ a 石牟礼道子 b 足尾銅山鉍毒事件
- ④ a 石牟礼道子 b 水俣病
- ⑤ a 南方熊楠 b 足尾銅山鉍毒事件
- ⑥ a 南方熊楠 b 水俣病

問 8 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 38

- ① Yさんは、人間が動物を一方的に利用することに反対して、動物が人間を利用する余地や人間より動物を優遇する余地を残すことが重要だと考えている。つまり、Yさんの考えには、自分の利益になるようにお互いを利用し合う点での平等こそが大切だとする平等主義がみられる。
- ② Zさんは、人間は理性をそなえた特別な存在であり、動物とは根本的に異なるものであるからこそ、動物の生命のことを配慮し、動物のために環境を保護しなければならない義務を負うと考えている。つまり、Zさんの考えには、友愛に基づいた人間中心主義がみられる。
- ③ Yさんは、人間が将来のことを配慮する能力をもつという事実には反対していないが、人間が環境を適切に保護できるというZさんの主張には納得ができないでいる。人間は傲慢さを捨てるべきで、そうすれば理性的な能力が一層高まり、環境を適切に保護できるようになるはずだと、YさんはZさんを批判している。
- ④ Zさんは、自然環境の危機が深刻化した際には、自然環境の保護が必要だということには納得できるが、人間と動物は対等なはずだというYさんの主張には納得ができないでいる。人間こそが将来を見通すことができるのであり、人間だけが積極的に環境を保護できるはずだと、ZさんはYさんを批判している。

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。

日本一の学校情報



<http://www.js88.com>

インターネット塾・予備校情報サイト



<http://jyuku.js88.com>